

潮風

第24号

令和3年度下期
放生津地域振興会
発行責任者 宮島 伊佐夫

越の海

放生津母親クラブでは、子供たちの健全育成を願い、会員の交流や親睦を深めながら、楽しく活動しています。

今年度もコロナ禍のため、恒例のバスツアーは、去年に引き続き企画できませんでしたが、金箔体験(オリジナルの豪華なお箸づくり)、夏休み工作(エコライト)、毎年好評で人気のクリスマスケーキ作りを行いました。

マスク着用、手の消毒、検温、換気を徹底し三密を避けるという、コロナ感染予防対策を取りながらということで、活動内容も制限されましたが、来年度も状況を踏まえながら、活動していきたいと思えます。



放生津母親クラブ
会長 増山 玲子

防災訓練 地域を見守る 黄色いハンカチ作戦

令和4年1月16日(日)実施



安心安全部会 隊長 富田 光男
神保寺自治会長

放生津校下一斉に行われた防災訓練は、平成7年1月17日発生した「阪神淡路大震災」に因み実施されました。

あの震災では建物の倒壊と火災が相次ぎ、6千人を超える犠牲者が発生した中、行政機関よりも地域住民による救助活動が多く命を救う結果に繋がったことから、自主防災活動による「共助」が注目されるきっかけとなりました。

そこで今回の訓練では、万が一自然災害が発生した時、各世帯に安否確認の合図として「黄色いハンカチ」の掲揚を、各自治会には被害状況の調査を呼びかけ、訓練開始から約1時間30分で調査が終了しました。集計した結果、校下全体の77%の世帯で黄色いハンカチが掲揚され、住民が地域を見守るしくみとして、一歩前進したと思います。

今後も防災訓練に参加して、お互いに助け合い、安心して暮らせる地域づくりと、いつ発生するかわからない災害に備えたいものです。



▲防災訓練後の反省会(越の瀧町自治会)

[防災訓練の結果]

	自治会名	訓練対象軒数	黄色いハンカチ寄数	割合
1	越の瀧町	38	34	89%
2	神保寺	111	95	86%
3	荒屋東部	78	72	92%
4	荒屋本町	80	56	70%
5	東町東部	155	90	58%
6	東町西部	30	25	83%
7	天神町	17	16	94%
8	倉屋敷	22	18	82%
9	四十物町	36	34	94%
10	山王町	32	18	56%
11	中町	68	59	87%
12	獅子絵田	91	72	79%
13	紺屋町	20	18	90%
14	立町	52	23	44%
15	菊屋町	11	9	82%
16	西立町	27	5	19%
17	南立町	47	43	91%
18	法土寺	41	41	100%
19	二の丸町	174	137	79%
20	二の丸本町	53	52	98%
21	江柱1区	46	42	91%
22	江柱2区	73	52	71%
23	江柱3区	69	40	58%
	合計	1,371	1,051	77%

敬老会

放生津地域振興会

おめでとうございます

令和3年度 対象者(75歳以上) 昭和21年9月15日以前の方
945名の内 ●米寿42名 ●白寿2名



令和3年9月20日(月)敬老の日に予定しておりました「敬老会」でしたが、今年も昨年同様に新型コロナウイルスの感染予防対策のため、残念ながら中止に致しました。楽しみにしていらっしゃる方々には、大変申し訳なく思っております。米寿の方々には県知事より、白寿の方々には地域振興会よりお祝い状を、対象者の皆様全員には地域振興会より記念品を用意して各自治会長より手渡ししていただきました。

特集 小学校の「あり方」を考える

中町自治会長 宮崎 哲郎

市教育委員会より「放生津小学校と新湊小学校を統合し新たな小学校を創設する」統合案が提案されています。児童数減少に歯止めがかからなければ、7年後の令和11年度には複式学級が見込まれるそうです。放生津小学校は、148年の歴史を誇り地域コミュニティの中核として存在しています。その小学校がなくなるかもしれない重大な問題を今地域住民として真剣に考える必要があります。

児童数の減少には種々の原因が考えられますが、当地区では少子化の他に多くの子育て世代の転出が挙げられます。親世代との同居に伴う新築や増改築の際に、十分な敷地が確保できず、そのために旧市街地から南部の中曽根などの住宅開発地区に多くの若い世代の方々が移住されてしまいました。

しかし近年若い世代の流出がひと段落し、旧市街地では高齢化が進んだことにより空き家・空き地が目立つようになりました。一方で四十物町・山王町・中町の再開発地域においては若い世代の住宅が立ち並ぶようになり変化が表れてきたと思います。また子育てをするなら射水市での施策や、4月から始まる18歳以下の医療費無料制度の導入等、子育て支援のための優遇施策の効果で、子育て世代の数が増えてきている環境の中で、放生津地区でも若い世代を呼び戻す取り組みが必要です。

射水市は今年から令和23年度までに新湊地区のまちなか再生事業に予算を付け24年度から本格事業を開始するとしています。事業の目的は、「空き家・空き地は地域の財産」との発想のもと移住希望者、特に若い世代の移住を促進することにあります。一方、小学校の統合問題は、児童の通学の利便性の面からもマイナス要因になり地域再生事業のブレーキになりかねません。小学校も無い地域にはたして子育て世代が移住してくるでしょうか。

現在、放生津小学校の児童数は116人、6年後には86人になると見込まれています。私たち世代からすると少人数になったなあと思いますが、WHOでは学校単位の児童数は100人以内が望ましいとしています。先進諸国では1学校は100人以下、1学級は15人前後で児童一人一人に対して十分なきめの細かい教育がなされています。「小さな学校」「小さなクラス」ほど、学習意欲や態度が積極的になり、子どもたちの人格形成・人間的成長にとっても効果的であることが実証されています。まさに放生津小学校の規模に当てはまり統合は必要ないとなります。小規模校のデメリットとして挙げられている「多様な考えに触れる機会の不足」については、これからのデジタル時代ではITの活用によりもっと多くの多様性に触れあえる機会は十分に可能であると文科省も手引書の中で示しています。また「子ども同士が切磋琢磨する機会の不足」については、子どもは他人と自分の能力の違いに気づくことによって競争意識が芽生えます。こうして力の差を認識することによって、自ら深く学ぶとともに、助け合う喜びや相手を思いやる快感などを経験していくのです。子供の自然な競争意識を芽生えさせるのに大規模な集団は必要ありません。

今、私たちは統合ありきの学校再編問題だけでなく、地域の再生に向けた街づくりの一環としてもっと時間をかけて議論して行く必要があると思います。



▲2月2日(水) 放生津小学校在り方検討協議会 第1回立ち上げ会議

令和3年度 放生津校区社会福祉協議会だより

放生津校区社会福祉協議会 会長 二口 憲夫

● 10月16日(土) 「ふれあいランチ会」

[対象者] 昭和21年4月1日以前に生まれた方
(在宅一人暮らしで75歳以上の方)

毎年恒例の「ふれあいランチ会」ですが、昨年と同様に新型コロナウイルス感染予防のため、残念ながら中止と致しました。

しかし、楽しみにしていいらっしゃる方が、大勢おられるので民生児童委員の方に協力していただき、希望者の方にお弁当を配布していただきました。



みんなの生涯学習・学級講座

女性学級

● 10月16日(土)・23日(土)
「編み物・押し絵教室」



● 11月13日(土)
「季節のリース飾り作り」



● 12月11日(土)
「太極拳体験教室」



高齢者学級

● 12月20日(月)
「門松作り」



青少年学級

● 12月18日(土)
「クリスマスケーキ作り」



(共催/放生津母親クラブ)

● 令和4年1月20日(木)
「免疫力を高める(塩麴作り)」



(共催/射水市食生活改善推進協議会 放生津地区)

放生津の 曳山御蔵

荒屋町

荒屋町曳山 格納庫

- ① 建設年月
平成8年(1996年)6月
- ② 建設金額
約2,000万円(事業費概算)
- ③ 総世帯数
荒屋本町自治会、荒屋東部自治会、倉屋敷自治会
約240世帯

昭和32年(1957年)10月18日建設以来、約40年経て劣化が著しく、曳山の飾りつけや片付け時の作業に危険が伴うため、提灯や木偶、王様等を付けたまま格納して後日整理及び解体できるような格納庫に改めようと、平成7年(1995年)6月の曳山委員会総会において再建築することに決定されました。

60名で構成された建設委員会を設立し、委員の献身的な働きのおかげで計画通りに完成することができました。荒屋本町、荒屋東部、倉屋敷の3町の自治会の皆さんに、月額2,500円×30ヶ月の負担をお願いし、他に215件の篤志寄付をいただくことができました。お陰で、格納庫内での事故もなく、安全な作業をさせていただいておりますことに感謝しております。

今後も荒屋町の曳山格納庫を大事にして後世に残していきたいと思っております。



広報潮風では毎回放生津地区の「曳山御蔵」の紹介をしています。町の曳山御蔵をお守りされている方からの投稿をお待ちしています。

地域支え合いネットワーク事業について

● 10月28日(木)

ミニ講座

「火災予防について」



百歳体操

〈二の丸町「コスモスの会」の様子〉



● 12月16日(木)

ミニ講座

「クリスマス会」



編集後記

全国的に少子化が進んでおり、各地で小中学校の統合が行われています。

富山県でも2月15日に富山市の通学区域審議会の答申があり、多くの小規模小学校が統廃合される案が出されました。射水市でも2年ほど前から「放生津小学校・新湊小学校の在り方説明会資料」として再編案が市教育委員会から提示されています。再編原案は昭和31年に国の中央教育審議会により答申された「適正規模に関する基本方針」を基に作られています。その頃は戦後ベビーブームの頂点で児童数が今より圧倒的に多く、どちらかというと大規模学校抑制のための基本方針でもあったようです。それから70年近くも経ち現在のような少子化の時代にもかかわらず無理やりに当てはめて再編案が作られていること自体には疑問を感じます。これからの社会環境の中で子供達にとってどのような教育環境が望ましいのかを改めて考え直す機会ではないでしょうか。戦後から各地域の単位は小学校校下を基本としてコミュニティが形成されその校下の中で様々な地域・社会活動が行われてきました。地域の小学校が無くなるということがコミュニティにとつてどのような影響をもたらすのかも十分に考える問題だと思います。

